

2023 年第 22 週(5 月 29 日~6 月 4 日)

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

感染症発生動向調査

名古屋市感染症発生動向調査情報

名古屋市感染症情報センター(名古屋市衛生研究所疫学情報部)

2023 年（令和 5 年）6 月 7 日作成

<https://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-0-0-0-0-0-0.html>

◆名古屋市の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者報告数

本市における 2023 年第 22 週（5 月 29 日～6 月 4 日）の市内 70 定点医療機関からの新型コロナウイルス感染症(COVID-19)患者報告数は 433 人で、定点あたり報告数は 6.19 人となり、前週比 1.09 倍に増加しました。

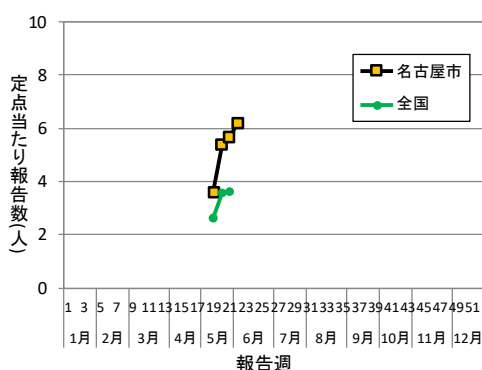
患者報告数および定点あたり報告数(名古屋市:2023年)

	第19週 (5/8～5/14)	第20週 (5/15～5/21)	第21週 (5/22～5/28)	第22週 (5/29～6/4)	第23週 (6/5～6/11)	第24週 (6/12～6/18)	第25週 (6/19～6/25)	第26週 (6/26～7/2)
患者報告数(人)	253	377	397	433	-	-	-	-
定点あたり報告数(人)	3.61	5.39	5.67	6.19	-	-	-	-

※報告数は速報値でありその後の訂正などにより、変更される場合があります

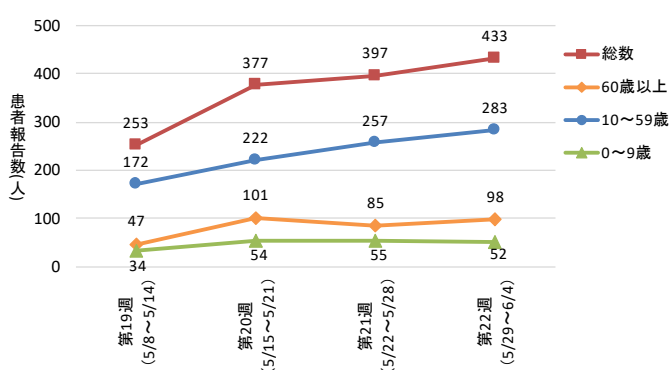
第21週では追加報告があり報告数に修正が行われています

定点当たり報告数の推移(2023年)



※名古屋市は2023年第22週、全国は2023年第21週までの報告数

年齢階級別報告数の推移(2023年:名古屋市)



◆新型コロナウイルス感染症に関する情報等

新型コロナウイルス感染症に関する相談や発生状況等の情報については下記のリンク等をご覧ください。

- 新型コロナウイルス感染症について（名古屋市）
<https://www.city.nagoya.jp/kenkofukushi/page/0000124556.html>
- 愛知県新型コロナウイルス感染症対策サイト（愛知県）
<https://www.pref.aichi.jp/site/covid19-aichi/>
- 新型コロナウイルス感染症について（厚生労働省）
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

◆本市の状況

〔定点把握感染症の発生動向〕

- 特記することなし。

〔1 類～5 類全数把握感染症の届出〕

診断週	感染症 の分類	疾患	発生数	発生の概要
2023 年 第 22 週	2 類	結核	4	男性、52 歳、結核性頸部リンパ節炎 女性、78 歳、肺結核 男性、60 歳、肺結核 女性、57 歳、無症状病原体保有者
2023 年 第 22 週	4 類	エムボックス	1	男性、40 歳代、感染地域：国内
2023 年 第 22 週	4 類	レジオネラ症	1	女性、68 歳、肺炎型、感染地域：愛知県
2023 年 第 22 週	5 類	後天性免疫不全症候群（H I V 感染症 を含む）	2	男性、39 歳、無症状病原体保有者、感染経 路：異性間性的接触、感染地域：不明 女性、40 歳、無症状病原体保有者、感染経 路：異性間性的接触、感染地域：国内
2023 年 第 22 週	5 類	梅毒	12	男性、44 歳、早期顕症梅毒 1 期 女性、29 歳、早期顕症梅毒 1 期 女性、21 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、41 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、44 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、45 歳、早期顕症梅毒 1 期 女性、32 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、70 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、43 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、28 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、35 歳、早期顕症梅毒 2 期 女性、29 歳、無症状病原体保有者

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

報告日が遅れたため先週号までに掲載されなかった 1 類から 5 類全数報告感染症。

診断週	感染症の分類	疾患	発生数	発生の概要
2023 年第 21 週	5 類	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	男性、74 歳、菌検出検体：腹水、菌種： <i>Klebsiella aerogenes</i> 、感染原因：以前からの保菌（保菌部位：腸管）
2023 年第 21 週	5 類	梅毒	5	男性、62 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、43 歳、早期顕症梅毒 1 期 男性、28 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、34 歳、早期顕症梅毒 2 期 男性、37 歳、無症状病原体保有者
2023 年第 20 週	5 類	後天性免疫不全症候群（HIV 感染症を含む）	1	男性、34 歳、無症状病原体保有者、感染経路：同性間性的接触、感染地域：国内
2023 年第 20 週	5 類	梅毒	2	男性、62 歳、無症状病原体保有者 男性、51 歳、無症状病原体保有者
2023 年第 19 週	5 類	梅毒	1	男性、50 歳、早期顕症梅毒 1 期

※ 感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを表示。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔2023 年 1 類～5 類全数把握感染症の届出報告数の累計〕

感染症の分類	疾患	累計
1 類感染症	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、他	0
2 類感染症	急性灰白髄炎	0
2 類感染症	結核（潜在性結核感染症を含む）	163（63）
2 類感染症	ジフテリア	0
2 類感染症	重症急性呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る）	0
2 類感染症	中東呼吸器症候群（病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る）	0

NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

2類感染症	鳥インフルエンザ（H5N1）	0
2類感染症	鳥インフルエンザ（H7N9）	0
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症（病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス（令和2年1月に、中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。）であるものに限る。） ※令和5年5月7日まで。	77775
3類感染症	コレラ	0
3類感染症	細菌性赤痢	0
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	3（1）
3類感染症	腸チフス	0
3類感染症	パラチフス	2（1）
4類感染症	デング熱	1
4類感染症	E型肝炎	2
4類感染症	エムボックス	2
4類感染症	マラリア	1
4類感染症	レジオネラ症	8
5類感染症	ウイルス性肝炎	3
5類感染症	アメーバ赤痢	5
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	26
5類感染症	急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）	7
5類感染症	クロイツフェルト・ヤコブ病	2
5類感染症	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	12
5類感染症	後天性免疫不全症候群（HIV感染症を含む）	33（24）
5類感染症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4
5類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	21
5類感染症	水痘（入院例に限る）	2
5類感染症	梅毒	208（60）
5類感染症	百日咳	2

累計は2023年第1週からの診断週による累計、（ ）内は無症状病原体保有者累計数を再掲、[]内は疑似症累計数を再掲、【 】内は感染症死亡者の死体累計数を再掲、〔 〕内は感染症死亡疑い者の死体累計数を再掲、〈 〉内は後天性免疫不全症候群の「その他」累計数を再掲。対象疾患が多いため、4類及び5類感染症は報告のあった疾患のみを掲載。

（報告数はその後の訂正などにより、変更される場合があります）

〔愛知県麻疹・風しん患者調査事業について〕

平成 20 年 1 月 1 日から、麻疹・風しんは全数把握対象疾患となりましたが、愛知県内では、感染症法に基づく届出では把握できない情報を得るため、医師会と協力して「愛知県麻疹・風しん患者調査事業」を実施しており、名古屋市も参加しています。調査結果については下記のリンク先（愛知県衛生研究所ホームページの中のコンテンツ <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/msl/msl.html>）をご覧ください。

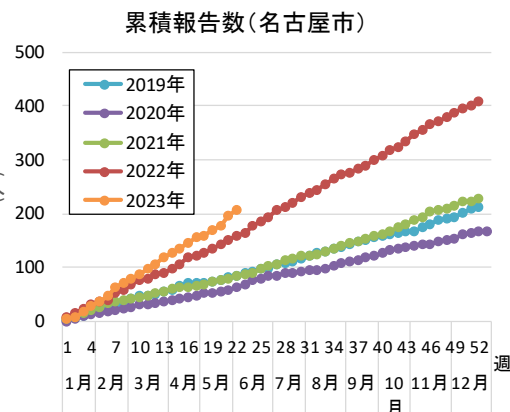
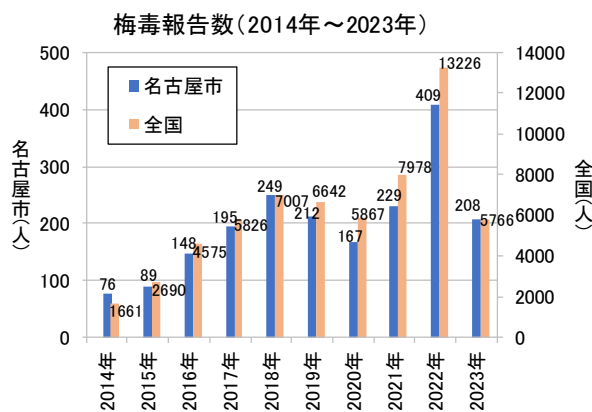
〔定点医療機関からの情報〕

定点医療機関からは検査結果や患者発生状況等がコメント情報として報告されています。定点医療機関から報告されたコメント情報は下記のとおりです。なお、コメント情報のなかった定点医療機関については掲載しておりません。

インフルエンザは B 型 2 人	定点医療機関（西区）
感染性胃腸炎はノロウイルス感染症	定点医療機関（西区）
インフルエンザは二人とも A 型	定点医療機関（昭和区）
A 型 男性 7 名@A 型 女性 3 名	定点医療機関（南区）
インフルエンザ A 型 4 名	定点医療機関（守山区）

〔名古屋市の梅毒報告数〕

- 近年、梅毒の患者報告数が全国的に増加しており、本市においても2023年（令和5年）の報告数は、1999年以降で最多となった昨年と同週比で上回るペースで増加しています。患者は、男性では20～50歳代で多く、女性では20歳代で特に報告数が増加しています。
- 梅毒は、梅毒トレポネーマという病原体による感染症で、感染経路は感染部位と粘膜や皮膚との直接接触（性的接触）です。
- 梅毒の症状は、時間の経過とともに局所から全身に広がっていきます。症状が一時的に消失しても治療を行わないと病気は進行します。また、感染しても症状が現れない場合や治っても再度感染することがあります。
- 妊婦が梅毒に感染すると、胎盤を通して胎児も感染し、死産や早産、先天梅毒を起こす可能性があります。
- 梅毒の治療には抗生物質が用いられます。



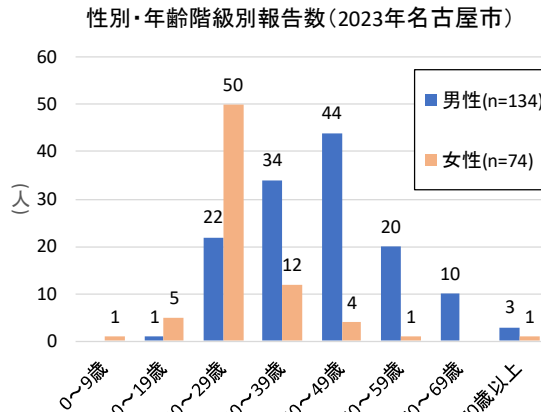
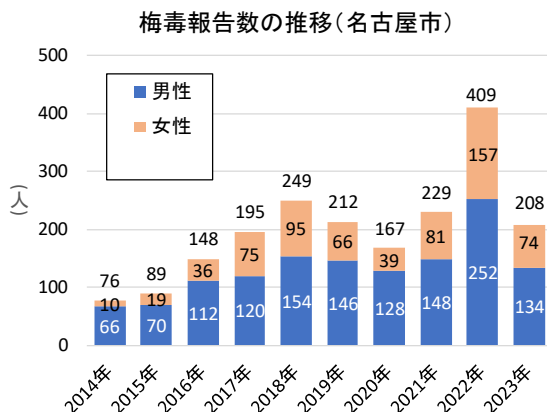
梅毒報告数の推移

	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
名古屋市	76	89	148	195	249	212	167	229	409※3	208※1
全国	1661	2690	4575	5826	7007	6642	5867	7978	13226※3	5766※2

※1 第22週(6月4日)まで

※2 第21週(5月28日)まで

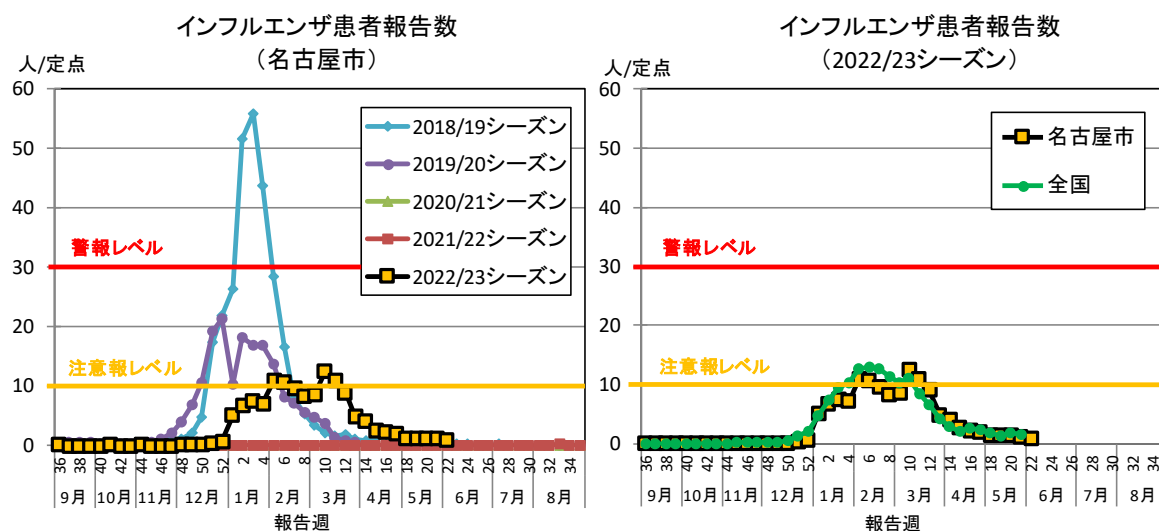
※3 報告数は速報値



〔トピックス：インフルエンザ〕

- 本市における第22週（5月29日～6月4日）の市内70定点からのインフルエンザ患者報告数は64人、定点当たり患者報告数は0.91人で前週より減少しました。
- インフルエンザは、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症です。主な感染経路は、感染した人の咳やくしゃみによる飛沫感染と病原体に汚染された物等を介した接触感染があります。
- 感染後、1日から3日程度の潜伏期間を経て、発熱（38℃以上）、頭痛、関節痛、筋肉痛、全身倦怠感等が出現し、のどの痛み、鼻水、咳等の症状も見られます。1週間前後の経過で軽快するのが典型的なインフルエンザの症状であり、いわゆる「かぜ」に比べて全身症状が強いのが特徴です。高齢者や乳幼児などは重症化することがあるので、特に注意が必要です。

〔名古屋市のインフルエンザ患者報告数：2023年6月7日作成〕



定点当たり患者報告数(2022/23シーズン：8週分)

	第15週 (4/10～ 4/16)	第16週 (4/17～ 4/23)	第17週 (4/24～ 4/30)	第18週 (5/1～ 5/7)	第19週 (5/8～ 5/14)	第20週 (5/15～ 5/21)	第21週 (5/22～ 5/28)	第22週 (5/29～ 6/4)
名古屋市	2.61	2.30	2.04	1.33	1.27	1.30	1.24	0.91
愛知県	3.11	3.03	2.51	1.85	1.36	1.98	1.88	—
全国	2.16	2.51	2.24	1.70	1.36	1.89	1.62	—
名古屋市 (昨シーズン)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

※「1」を超えると流行入り、「10」を超えると注意報、「30」を超えると警報の基準

※報告数は各週公表時における速報値

各区の患者報告数(第22週)

	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	合計
市内70定点からの患者報告数(人)	1	4	0	7	2	1	3	0	1	1	3	12	13	6	10	0	64
定点当たり患者報告数(人)	0.2	1.0	0.0	1.8	0.4	0.3	0.6	0.0	0.3	0.3	0.8	3.0	2.6	1.5	2.5	0.0	0.91

インフルエンザ



2023年第22週

注意報警報レベルについて

患者報告状況 (定点当たり患者報告数)	色
平常レベル	
注意報レベル	
警報レベル	

注意報・警報レベルの基準値(定点当たり患者報告数)

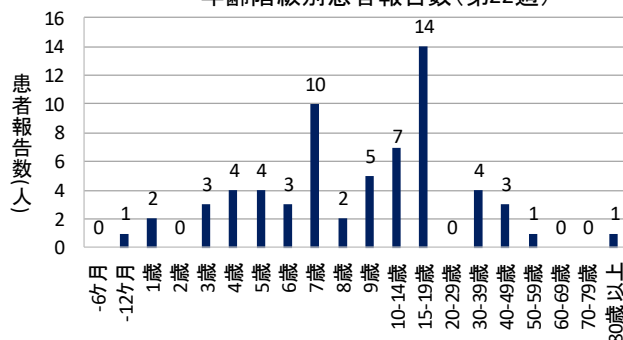
注意報レベル	警報レベル	
基準値	開始基準値	終息基準値
10	30	10

注意報レベル: 定点当たりの患者報告数が10以上30未満の場合

警報レベル: 定点当たりの患者報告数が30以上となり、その後、10未満となるまで

年齢階級別患者報告数

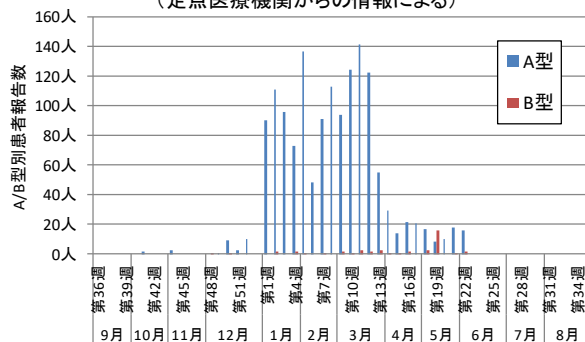
定点からのインフルエンザの 年齢階級別患者報告数(第22週)



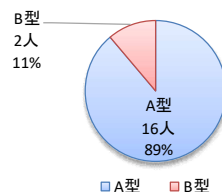
インフルエンザA/B型別流行状況

インフルエンザウイルス迅速診断キットによるインフルエンザA/B型別の検査結果が定点医療機関から報告されています。本市におけるインフルエンザA/B型別の患者情報を集計したところ、2022/23シーズンは、インフルエンザA型1478人、インフルエンザB型45人がこれまでに報告されています。インフルエンザウイルスのうちAH3亜型が全国的に多く検出されています。

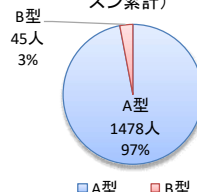
インフルエンザA/B型別患者報告数(2022/23シーズン) (定点医療機関からの情報による)



インフルエンザA/B型別患者 報告数の割合(第22週)



インフルエンザA/B型別患者 報告数の割合(2022/23シーズン累計)



◆2023 年第 22 週 患者報告数（疾病区別）、定点あたり患者報告数（疾病区別）、年齢階層別患者報告数（疾病別）

患者報告数(名古屋市)

2023年第22週(2023年5月29日～6月4日)

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計	前週比	過去比※
★ インフルエンザ	1	4			7	2	1	3		1	1	3	12	13	6	10	64	0.7	
★ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	27	13	14	38	40	27	38	17	14	31	38	39	31	28	20	18	433	1.1	
○ RSウイルス感染症	14	4	12	28	10	27				2		14	10	9	2		132	1.6	1.2
○ 咽頭結膜熱			5	12		6				3	2	1	1		2	2	34	1.0	2.2
○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	1	5	18	4	16					2	7	3	4	6	1	68	0.9	2.8
○ 感染性胃腸炎	60		24	32	21	68	8			36	17	8	42	44	34	23	417	1.1	2.6
○ 水痘			3									1			1		5	2.5	0.9
○ 手足口病	1		1	3	3					2			2	2		2	16	0.9	5.3
○ 伝染性紅斑													2	2			0		0.0
○ 突発性発疹			3	4		1				1			2	1			12	2.4	0.9
○ ヘルパンギーナ	4	11	6	9	1	3				9	2	1	1	1	11	1	60	1.7	25.7
○ 流行性耳下腺炎	1															1	2	2.0	1.2
△ 急性出血性結膜炎																	0		
△ 流行性角結膜炎									1					2			3		4.5
◇ 細菌性髄膜炎																	0		
◇ 無菌性髄膜炎																	0		
◇ マイコプラズマ肺炎																	0		
◇ クラミジア肺炎																	0		
◇ 感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)																	0		
計	109	33	73	151	81	149	49	17	16	85	64	83	105	98	85	48	1246		
※過去3年の同週の平均値との比																			
★ インフルエンザ/COVID-19 定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
△ 小児科定点数	5	4	5	4	5	4	5	5	4	4	4	4	5	4	4	4	70		
○ 眼科定点数	1		1	1	1		1	1	1			1		1	1	1	11		
◇ 基幹定点数			1				1			1							3		
★○△◇は定点種別を示す。セルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。																			

定点あたり患者報告数、および流行警報・注意報発生状況(名古屋市)

2023年第22週(2023年5月29日～6月4日)

疾患 \ 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	平均
★ インフルエンザ	0.2	1.0			1.8	0.4	0.3	0.6		0.3	0.3	0.8	3.0	2.6	1.5	2.5	0.91
★ 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)																	6.19
○ RSウイルス感染症	2.8	1.0	2.4	7.0	2.0	6.8				0.5		3.5	2.0	2.3	0.5		1.89
○ 咽頭結膜熱			1.0	3.0		1.5				0.8	0.5	0.3	0.2		0.5	0.5	0.49
○ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.2	0.3	1.0	4.5	0.8	4.0					0.5	1.8	0.6	1.0	1.5	0.3	0.97
○ 感染性胃腸炎	12.0		4.8	8.0	4.2	17.0	1.6			9.0	4.3	2.0	8.4	11.0	8.5	5.8	5.96
○ 水痘			0.6									0.3		0.3			0.07
○ 手足口病	0.2		0.2	0.8	0.6					0.5			0.4	0.5		0.5	0.23
○ 伝染性紅斑																	
○ 突発性発疹			0.6	1.0		0.3				0.3			0.4	0.3			0.17
○ ヘルパンギーナ	0.8	2.8	1.2	2.3	0.2	0.8				2.3	0.5	0.3	0.2	0.3	2.8	0.3	0.86
○ 流行性耳下腺炎	0.2															0.3	0.03
△ 急性出血性結膜炎																	
△ 流行性角結膜炎									1.0					2.0			0.27

警報対象疾患	流行発生警報		流行発生注意報 基準値
	開始基準値	終息基準値	
インフルエンザ	30	10	10
新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)	-	-	-
RSウイルス感染症	-	-	-
咽頭結膜熱	3	1	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8	4	-
感染性胃腸炎	20	12	-
水痘	2	1	1
手足口病	5	2	-
伝染性紅斑	2	1	-
突発性発疹	-	-	-
ヘルパンギーナ	6	2	-
流行性耳下腺炎	6	2	3
急性出血性結膜炎	1	0.1	-
流行性角結膜炎	8	4	-

流行警報・注意報について

■ **太字の数字** は流行発生警報

■ **斜体の数字** は流行発生注意報

■ 警報及び注意報の発生は、厚生労働省の感染症発生動向調査における警報発生システムの基準値(左表)に準拠しています。なお基準値は、変更される場合や当センターの判断で、独自の設定に変更する場合があります。

■ この警報及び注意報は、感染症発生動向調査に関わる専門家の対策立案を支援するためのものです。詳しい目的、利用法等については当情報センターにご連絡ください。

* 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の区別定点あたり患者報告数は計上しておりません。

NIDWR Nagoya Infectious Diseases Weekly Report

年齢階層別患者報告数(名古屋市)

2023年第22週(2023年5月29日～6月4日)

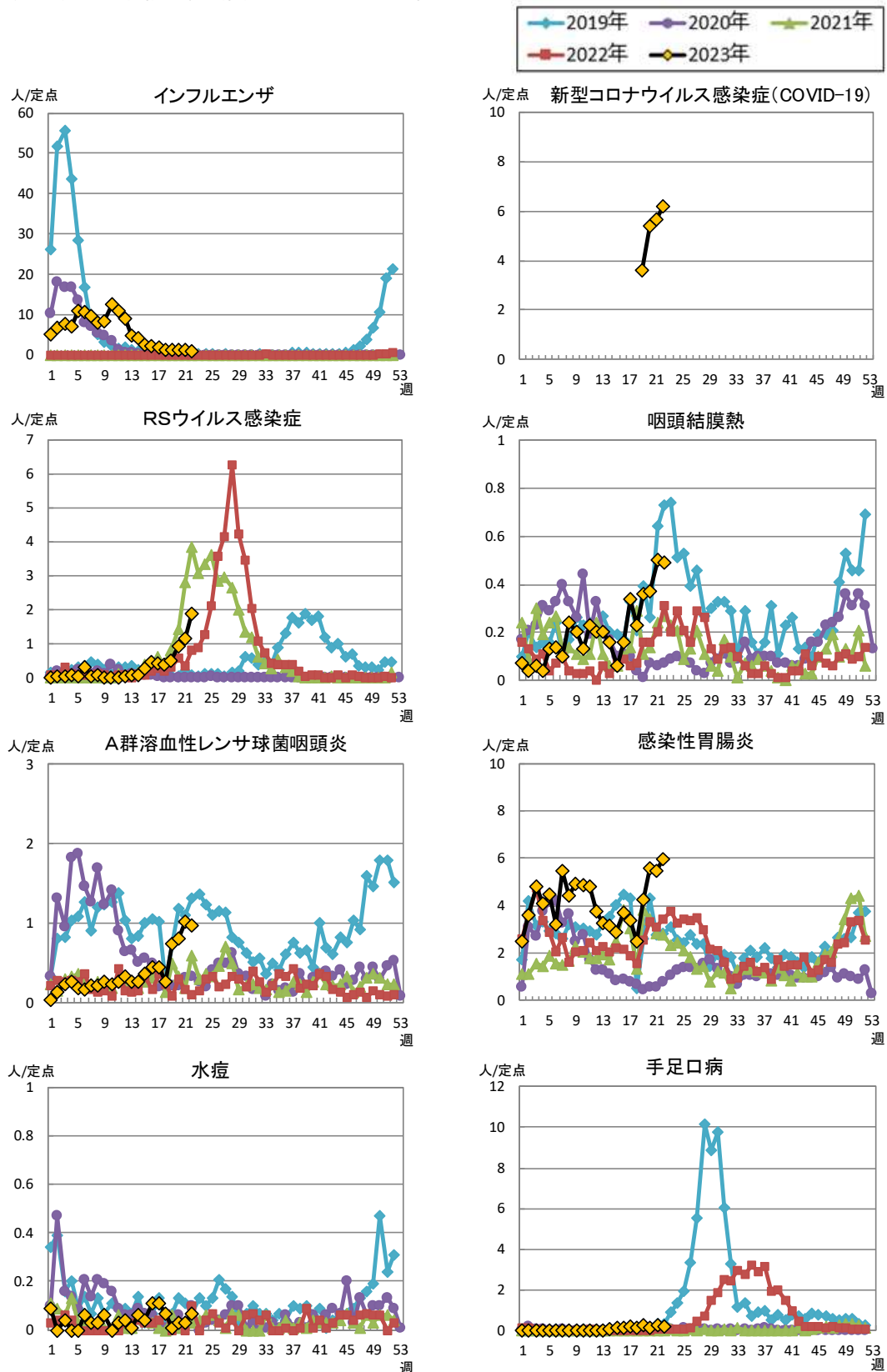
疾患 \ 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上
インフルエンザ		1	2		3	4	4	3	10	2	5	7	14			4	3	1		1
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	6	4	6	6	1	5	3	5	4	4	8	26	34	60	54	52	57	30	27	41

疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20歳以上
RSウイルス感染症	17	21	37	19	19	13	5				1			
咽頭結膜熱		3	13	7	2	2	3	1	1			1		1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		2	3	3	10	8	13	11	3	3	2	3	2	5
感染性胃腸炎	3	26	54	30	46	46	37	31	29	26	15	24	7	43
水痘						1		1		1		2		
手足口病			6	2	4	2		1			1			
伝染性紅斑														
突発性発しん		5	6			1								
ヘルパンギーナ		5	18	16	10	4	3	1			1			1
流行性耳下腺炎			1											

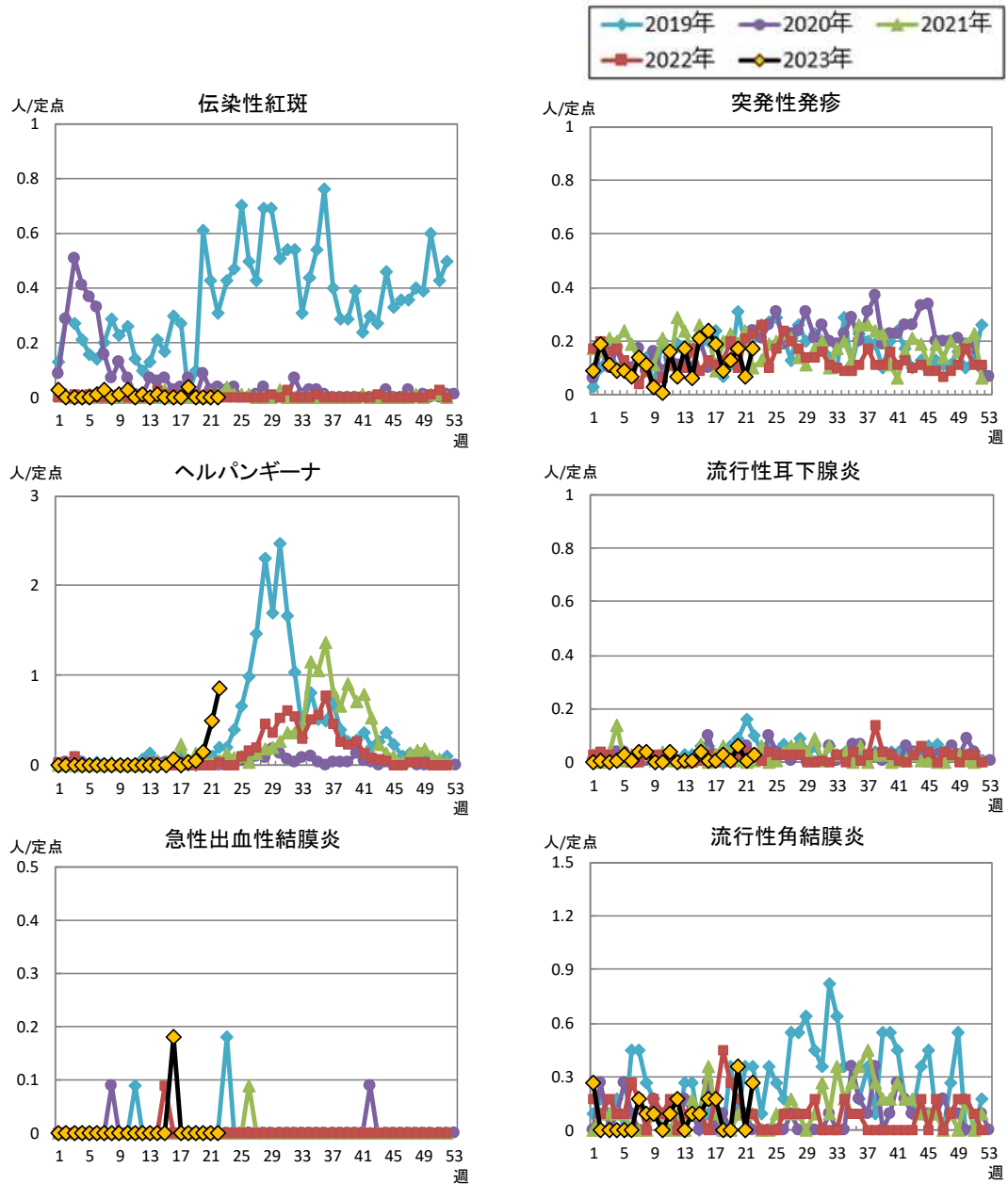
疾患 / 年齢階層	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70歳以上
急性出血性結膜炎																			
流行性角結膜炎														1		1	1		

疾患 / 年齢階層	0歳	1-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65-69歳	70歳以上
細菌性髄膜炎																
無菌性髄膜炎																
マイコプラズマ肺炎																
クラミジア肺炎																
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)																

◆インフルエンザ/COVID-19定点・小児科定点・眼科定点医療機関からの
定点あたり患者報告数の推移グラフ(1) 2023年第22週まで



◆インフルエンザ/COVID-19定点・小児科定点・眼科定点医療機関からの
定点あたり患者報告数の推移グラフ(2) 2023年第22週まで



◆ 基幹病院定点月報の集計結果〔2023年5月分〕

基幹定点数：3（北区、昭和区、中川区）

表1. 基幹定点報告、区別患者報告数（名古屋市）

2023年5月

疾患 / 区	北	昭和	中川	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2			2
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症				0
薬剤耐性緑膿菌感染症				0
計	2	0	0	2

表2. 基幹定点報告、年齢階級別報告数（名古屋市）

2023年5月

疾患 / 年齢階級	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80-89	90歳-	計
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症									2		2
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症											0
薬剤耐性緑膿菌感染症											0
計	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2

◆ 性感染症について〔性感染症定点把握、2023年5月分〕

性感染症定点数：15（泌尿器科系：8、産婦人科系：7）

報告された患者数を性別でみると、男性では性器クラミジア感染症、淋菌感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマの順に多く、女性では性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症および尖圭コンジローマの順に多く報告がありました。今月の性感染症の報告数は男性177人、女性は40人でした。（表2、図1参照）

2023年5月分を年齢階級別に見ると、男性の性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、淋菌感染症では15歳以上、尖圭コンジローマは20歳以上の全ての年齢階級で報告がありました。女性では性器クラミジア感染症は15歳から39歳の年齢階級で報告があり、性器ヘルペスウイルス感染症は20歳から29歳の年齢階級で報告がありました。尖圭コンジローマは20歳から34歳の年齢階級で報告があり、淋菌感染症は20歳から24歳および30歳から34歳の年齢階級で報告がありました（表2、図2参照）。

表1. 性感染症区別患者報告数（名古屋市）

2023年5月

疾患 / 区	千種	東	北	西	中村	中	昭和	瑞穂	熱田	中川	港	南	守山	緑	名東	天白	計
性器クラミジア感染症	3		12	2	7	51	10			19	4				2	2	113
性器ヘルペスウイルス感染症			4	2	2	13	2	1			2				2	1	34
尖圭コンジローマ			4		2	4	5			5						2	22
淋菌感染症	2		8		2	14	3	1		13	1				4		48
計	5		28	4	13	82	20	2		37	7				8	3	217

STD定点数	1		2	1	1	2	1	1		1	1	1		1	1	1	15
--------	---	--	---	---	---	---	---	---	--	---	---	---	--	---	---	---	----

のセルは、該当疾病の定点医療機関のない区を示す。

表2. 性感染症年齢階級別患者報告数（名古屋市）

2023年5月

疾患 / 年齢階級	性別	0-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55歳-	計
性器クラミジア感染症	男性		3	25	22	11	12	1	6	3	5	88
	女性		5	10	8	1	1					25
性器ヘルペスウイルス感染症	男性		1	2	5	4	2	2	1	3	6	26
	女性			3	3						2	8
尖圭コンジローマ	男性			6	3	2	1	3	2	1	1	19
	女性			1	1	1						3
淋菌感染症	男性		5	14	10	2	1	4	2	4	2	44
	女性			3		1						4
計	男性		9	47	40	19	16	10	11	11	14	177
	女性		5	17	12	3	1				2	40

図1. STD各感染症が総報告数に占める割合(2023年5月)

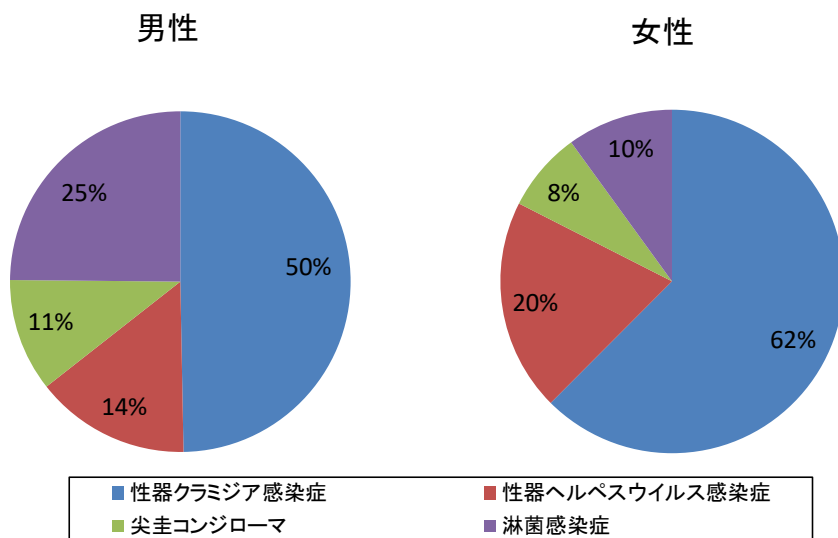


図2. 各STDの性別・年齢階級別の定点あたり報告数(2023年5月)

